

Economic Indicators

発表日: 2020年8月13日(木)

企業物価指数(2020年7月)

～商品市況の持ち直しを主因に持ち直しが続くも、先行きの上昇ペースは鈍化～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

(単位: %)

		国内企業物価				最終消費財 (国内品)		国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)	
		前期比	前期比※	前年比	前年比 (消費税除く)	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
2019	7月	▲0.1	▲0.3	▲0.7	▲0.7	0.0	▲0.5	▲0.1	▲0.4	▲0.2	▲4.9	▲1.9	▲8.4
	8月	▲0.2	▲0.2	▲0.9	▲0.9	▲0.3	▲0.7	▲0.3	▲0.7	▲1.3	▲5.8	▲0.6	▲8.5
	9月	0.0	▲0.1	▲1.1	▲1.1	0.1	▲0.8	0.0	▲0.9	0.0	▲6.2	▲0.8	▲9.7
	10月	1.1	1.4	▲0.4	▲1.9	▲0.5	▲2.0	1.2	▲0.1	0.3	▲6.3	0.3	▲10.9
	11月	0.1	0.1	0.1	▲1.4	0.1	▲1.2	0.1	0.3	0.3	▲6.0	0.3	▲11.3
	12月	0.2	0.2	0.9	▲0.7	0.4	0.1	0.1	0.9	0.0	▲4.4	1.1	▲6.6
2020	1月	0.1	0.1	1.5	▲0.1	▲0.1	0.6	0.1	1.5	0.4	▲1.4	0.5	▲0.8
	2月	▲0.5	▲0.5	0.7	▲0.9	▲0.5	▲0.3	▲0.4	0.8	0.1	▲2.2	0.1	▲1.8
	3月	▲0.9	▲0.9	▲0.5	▲2.0	▲0.9	▲1.5	▲0.8	▲0.3	▲2.3	▲5.1	▲4.8	▲7.8
	4月	▲1.5	▲1.5	▲2.4	▲3.9	▲1.5	▲3.7	▲1.5	▲2.2	▲1.1	▲6.6	▲5.7	▲13.3
	5月	▲0.5	▲0.5	▲2.8	▲4.2	▲0.5	▲4.2	▲0.4	▲2.4	▲1.2	▲6.5	▲5.9	▲18.0
	6月	0.6	0.6	▲1.6	▲3.1	0.8	▲2.9	0.6	▲1.4	0.7	▲4.2	0.6	▲15.8
	7月	0.6	0.4	▲0.9	▲2.4	0.0	▲2.5	0.5	▲0.8	0.8	▲3.2	1.9	▲12.6

(出所) 日本銀行「企業物価指数」

※は夏季電力料金調整後の値。

○ 国内企業物価は前月比で2か月連続の上昇、前年比での下げ幅を縮小させる

7月の国内企業物価は前月比+0.6%（コンセンサス：同+0.4%、レンジ：同+0.1%～+0.6%）、前年比▲0.9%（コンセンサス：同▲1.1%、レンジ：同▲1.4%～▲0.9%）と、コンセンサスをやや上回る結果となった。また、消費税を除いた場合でみると前年比▲2.4%となった。なお、毎年7月～9月には夏季電力割増料金が適用されており、その影響により前月比は+0.2%pt程度押し上げられている（夏季電力料金調整後の前月比：+0.4%）。

前月比で内訳をみると、原油価格や銅価格の上昇を背景に石油・石炭製品が前月比+6.9%（寄与度：+0.34%pt）、非鉄金属が同+3.8%（同：+0.10%pt）と上昇が続いた。また、農林水産物が同+0.7%（同：+0.03%pt）と上昇に寄与している。一方、スクラップ類が同▲2.9%（同：▲0.02%pt）、木材・木製品が同▲1.2%（同：▲0.01%pt）、生産用機器が同▲0.3%（同：▲0.01%pt）と低下に寄与した。また、電力・都市ガス・水道は、夏季電力割増料金が適用されたことにより同+2.8%となったが、その影響を除くと、過去の原油価格の低迷を受け同▲0.8%と低下している。7月の国内企業物価は、各国での経済活動再開を受けた商品市況の持ち直しを背景に、前月比で2か月連続の上昇となった。8月も上昇が続くと予想するが、持ち直しのペースは鈍化すると予想する。

輸入物価指数は契約通貨ベースでは前月比+2.3%（前年比▲12.0%）、円ベースでは同+1.9%（同▲12.6%）となった。商品市況の上昇を背景に、契約通貨ベースで石油・石炭・天然ガスが同+9.8%（寄与度+1.88%pt）、金属・同製品が同+3.2%（同+0.37%pt）と大きく上昇したことで、契約通貨ベース、円ベースともに前月比で上昇、前年比での下げ幅を縮小させた。先行きについては、商品市況の上昇に一服感がでてきていることなどから、持ち直しのペースは鈍化するだろう。

○ 需要段階別・用途別指数は商品市況の持ち直しを受け、前月比で上昇が続く

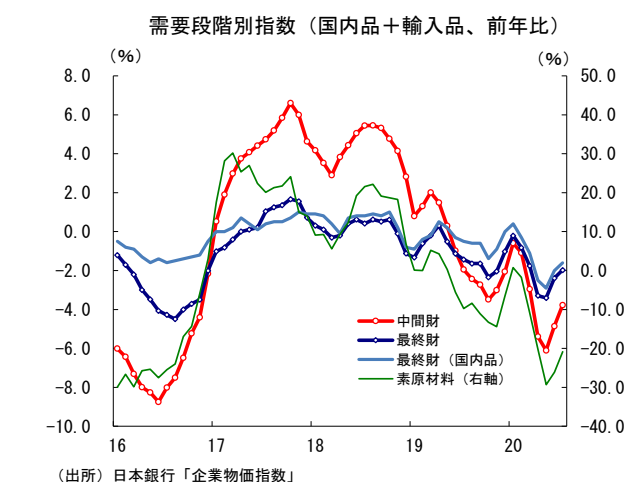
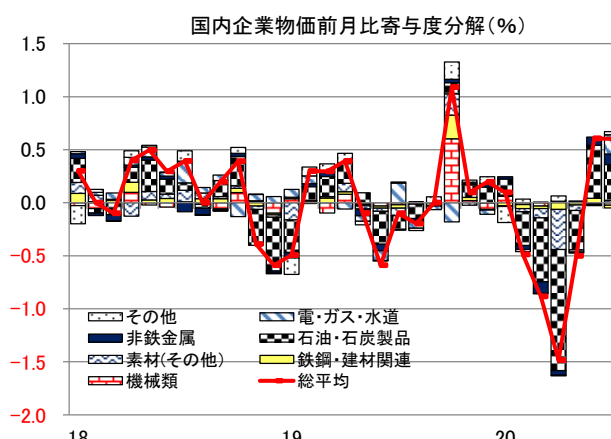
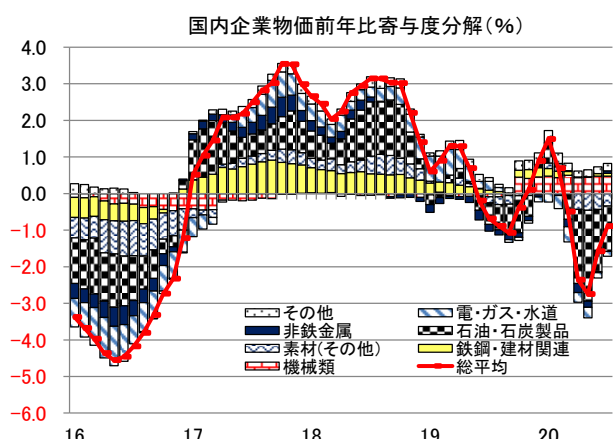
需要段階別・用途別指数（国内品＋輸入品）をみると、素原材料は前月比＋3.5%（前年比▲20.8%）、中間財は同＋0.9%（同▲3.8%）、最終財は同＋0.2%（同▲2.0%）となった。また、消費者物価との関連の深い消費財の国内品は同＋0.4%（同▲2.5%）となった。商品市況の持ち直しを背景に、素原材料を中心に上昇が続いた。今後については、足下で商品市況の持ち直しには一服感があることから、持ち直しのペースは限定的なものとなるだろう。

○ 先行きの国内企業物価の持ち直しのペースは鈍化を予想

7月の国内企業物価は、各国での経済活動再開を受けた商品市況の持ち直しを主因に、前月比で2か月連続の上昇、前年比でマイナス幅を縮小させた。

8月についても前月比で上昇が続くと予想するが、持ち直しのペースは鈍化するとみている。持ち直しの主因となった商品市況については、原油価格（ドバイ）が40ドル前半での推移が続くなど、足下で上昇に一服感が出ている。また、景気が大幅に悪化したことにより、需給バランスの改善による国内企業物価の持ち直しも困難だろう。世界的に新型コロナウイルスの新規感染者数増加は続いていることや米中関係の悪化などリスクもあり、世界経済の先行き不透明感は強い。

8月以降、国内企業物価の持ち直しのペースは鈍化し、消費税を除いたベースで前年比▲2%程度での推移が続くと予想する。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。